



8月会山行

中央アルプス 越百山周辺

日時：平成22年8月28日(土)～29日(日)

集合：越百山山頂 8月29日(日)午前11時30分

パーティー

- A. 東川中山沢：栗原L、棚橋、田邊、大田原
- B. 今朝沢：佐貫L、渡辺、古野、福永、金沢
- C. 越百川：小川L、飯田、浅井
- D. 横沢～唐松沢～中小沢右俣左沢：横山L、小暮、笹川
- E. 仙涯沢：岩田L、大野、坂村、國田
- F. 与田切川アズキ沢：木下L、利香、煤孫、坂井
- G. 越百山往復（木曽側から）：高橋L、三坂、山口

<総括>

今回の会山行はトマではやっていない山域でやろうと言うのが、今回の担当内でまとまった意見であった。あれこれと意見の出た中、トマの風では越百川と片桐松川にそれぞれ2パーティーが遡行をしている適度な山深さとアルペンムードのある越百山周辺でおこなうことに決まったのでした。

出発までは当初の予想に反してドタ参が相次いだと思ったら、今度はドタキャンも相次いで、パーティー割りも伊那側と木曽川に分けたこともあって、変更にはなかなか苦労をしましたが、当日は天気にも恵まれ、1パーティーがテン場でアクシデントで引き返したものの、残りの全パーティーが山頂に集合したときには、そんな苦労もどこかへ吹っ飛んでいました。

また集中日当日は、今回の会山行担当でありながら参加することができなかった石井君のところに、元気な第二子が誕生したという吉報が、山頂集合時に飛び込んでくるという嬉しいハプニングもありました。担当の石井君は今回は参加できないにもかかわらず、山域選びからパーティー変更など公私に渡って忙しい中、会山行の成功へと尽力してくれたことは大きな支えになりました。

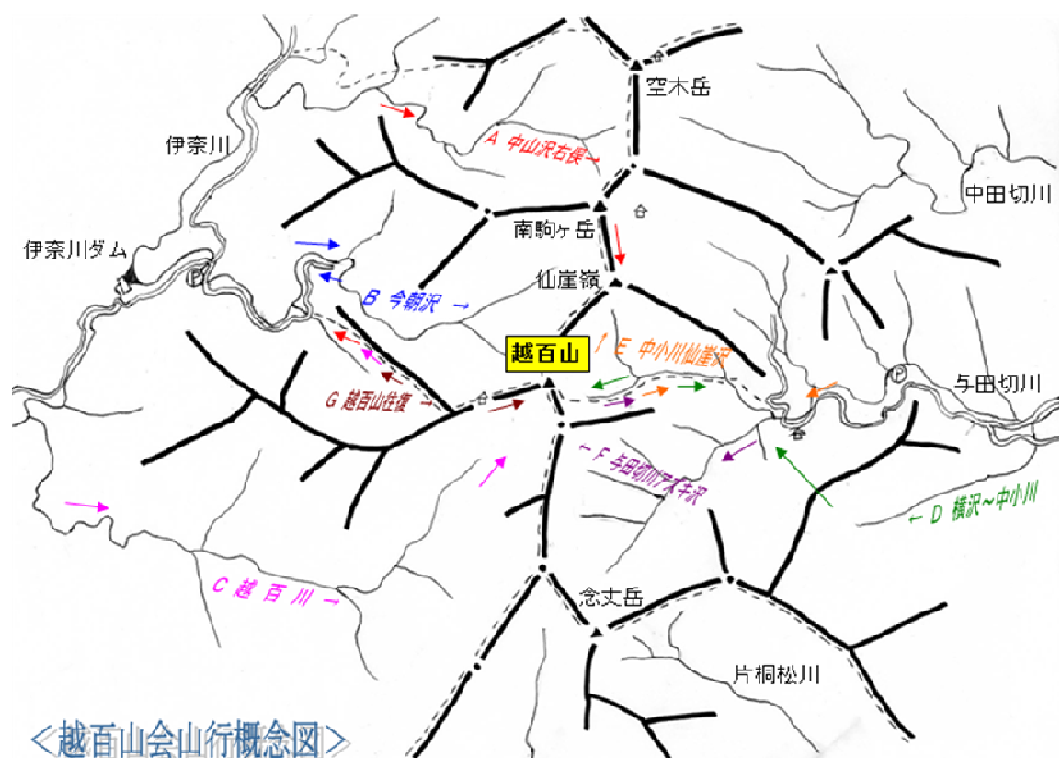
今後もマンネリ化せずに新しい山域での会山行をおこなって行きたいと思いますが、それには会全体のレベルアップも必要ですのでよろしくお願いします。（田邊）

会山行前の源太郎で、煤孫さんから「夏の集中には参加したことが無い」と聞いて少々びっくりしましたが、思えば2007年エブリサシ、2008年巻機、2009年谷川と、ここ3年全て天候理由で中止となっていました。2006年の荒沢岳集中以来の成功ということで、山行前のルート・メンバー変更のドタバタや、Bパーティーのアクシデント等ありましたが、天候にも恵まれ、概ね満足できる結果だったと思います。

昨秋の総会で担当を仰せつかったものの、折りしも下の子の出産予定と重なってしまい、他の担当者を募ったものの、適任者無しということで、担当者不参加を決めて続行することに。場所についても近年の参加メンバーの力量を考慮すれば従前通りというわけにもいかず、考慮の結果トマでは初の中央アルプスとしました。花崗岩質の明るい連瀑のある一方、ガレが続いて一部期待外れなどもあったようでしたが、たまには普段（上信会越など）と違った雰囲気の良い沢も良かったのではないのでしょうか。中アには他にも大田切川流域や木曽駒周辺など、日帰り～一泊の手頃な沢も多いので、また企画してみるのも良いかもしれません。

今回は不参加ではありましたが、担当として参画した部分としては、それなりに達成感を感じることはできました。当面は会山行当日に生まれた娘を含めて子育て中心の生活ですが、可能な形で会に関わっていければと思います。（石井）

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>



中央アルプス 東川中山沢

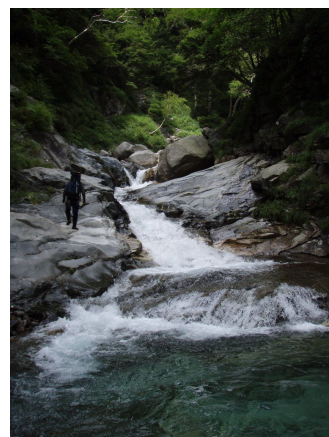
大田原

【日時】 2010年08月28日(土)～29日(日)

【メンバー】 L栗原、田邊(一)、棚橋、大田原

金曜夜の残業を回避し、会山行へ向かうことが個人的な核心部であったが、無事木曽へと向かう飯田車に同乗できた。夜の闇に沈む木曽谷に到着すると、一滴も飲まないまま皆早々に仮眠に入った。

車を乗り換えて越百山登山口の駐車場へ。佐貫Pや高橋Pと別れ、伊奈川沿いの林道を約一時間半、東川の発電所施設に到着。期待通りの上天気で、とても暑い。ここまですごうバテ気味である。ここからようやく水に入れるかと思ったが、東川沿いに踏み跡が続いており、しばらくはそれを辿ることに。踏み跡は東川を左岸へ渡り、その後も続いているようだったが、北沢の出合を過ぎた辺りで沢に下りた。しばらくは何も無い川原が続く。沢が屈曲すると、大きな岩を割るように3段の滝が現れる。1段目は大岩の隙間をくぐり抜け、2段目と3段目は左岸を巻いた。その上も大岩の間をすり抜けて越えた。メンバーがメンバーだけに、とてもペースが速い。今シーズン泊まりの沢は初である私は、荷物の重さと



【きれいなナメを行く】

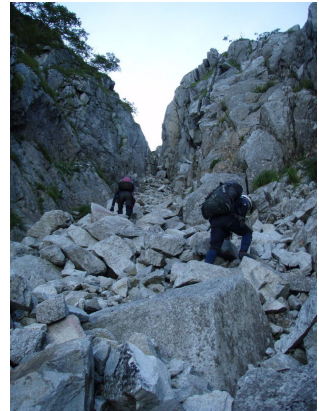
暑さに喘ぎ、サクサク進む三人の背中を追うのに必死であった。キラキラ輝くナメを越え、なおも進むと左岸に南沢を見る。田邊さんと私は竿を出してみるが、当たりすらなかった。残念。川原にナメにと、花崗岩に磨かれた美しい水の流れを辿ると、ナメ状の滝で始まる中山沢の出合だ。二俣は石がゴロゴロしており、泊まりに適した場所は見当たらない。一休みした後、中山沢へ入る。少し進むと、前方に2段の滝が見えてきた。周囲は急な壁に囲まれており、巻くとしたら大高巻きかと思われた。近づいてみると、直登は無理だが、ロープを出せば巻けるのかなあ、という



【唯一の核心である滝】

様相。しかし左右ともガレており、気軽に登れる感じではない。田邊さんと棚橋さんは、左の壁を登るルートを見出した様子。リーダー栗原さんは、右のガレを登り、その上の壁を登るつもりようだ。私は皆が行く方へついて行きます、というダメ姿勢。結局リーダーの判断に従い、右のガレを詰める。どん詰まりは急峻な壁。脆い感じで嫌らしい。栗原さんが空身でロープを引き、ここを越える。ダメ姿勢の私はゴボウで這い上がる。左手の

ブッシュに入り、その先のザレたルンゼを横切ってまたブッシュに入る。ここからは懸垂不要で2段目の上に降り立つことができた。下してみると、下から見えていた2段目は左俣の滝で、降り立ったのは右俣の滝の上だった。奥の二俣は滝場の真っ只中なわけだ。右から巻いたことは、右俣に入る予定の我々には正解ルートだったといえよう。この巻きがこの沢の唯一にして最大の核心となるが、この核心があるために、沢のグレードがぐんと上がるように思う。そろそろいい時間となり、幕場を探しながら歩く。2段の滝を越えて偵察に行った田邊さんが右岸にスペースを発見し、そこで行動を打ち切ることに決まった。へろへろの体に鞭打ってタープを張り、薪を集めれば、楽しい沢の夜の始まりだ。久しぶりの焚き火の傍らで、各自のつまみや田邊さんの夕食に舌鼓を打った。無線はどのパーティーとも繋がらなかった。棚橋さんと田邊さんは焚き火の横で就寝したが、夜半はとても寒かったそうだ。



【ひたすらガレをつめ上がる】

翌朝は気合を入れて5:45出発。側壁は急峻だが、沢の中はガレが続くのみ。崩れやすい足元に気をつけながら登っていくと、最後の二俣。右はボロい感じの涸れ滝、左はCS。栗原さんは右を登り、他3人はCSを越える。栗原さんも左に合流してこちらを詰めていくと、摺鉢窪避難小屋への分岐のところに出た。本日も好天、遠くの山までよく見える。集中場所である越百山まで、眺望を楽しみながら稜線歩きを楽しむ。仙涯嶺を越えたところで高橋Pの面々と出会う。越百山では岩田Pもすでに到着しており、炎天の山頂で他パーティーの到着を待った。

【グレード】3級

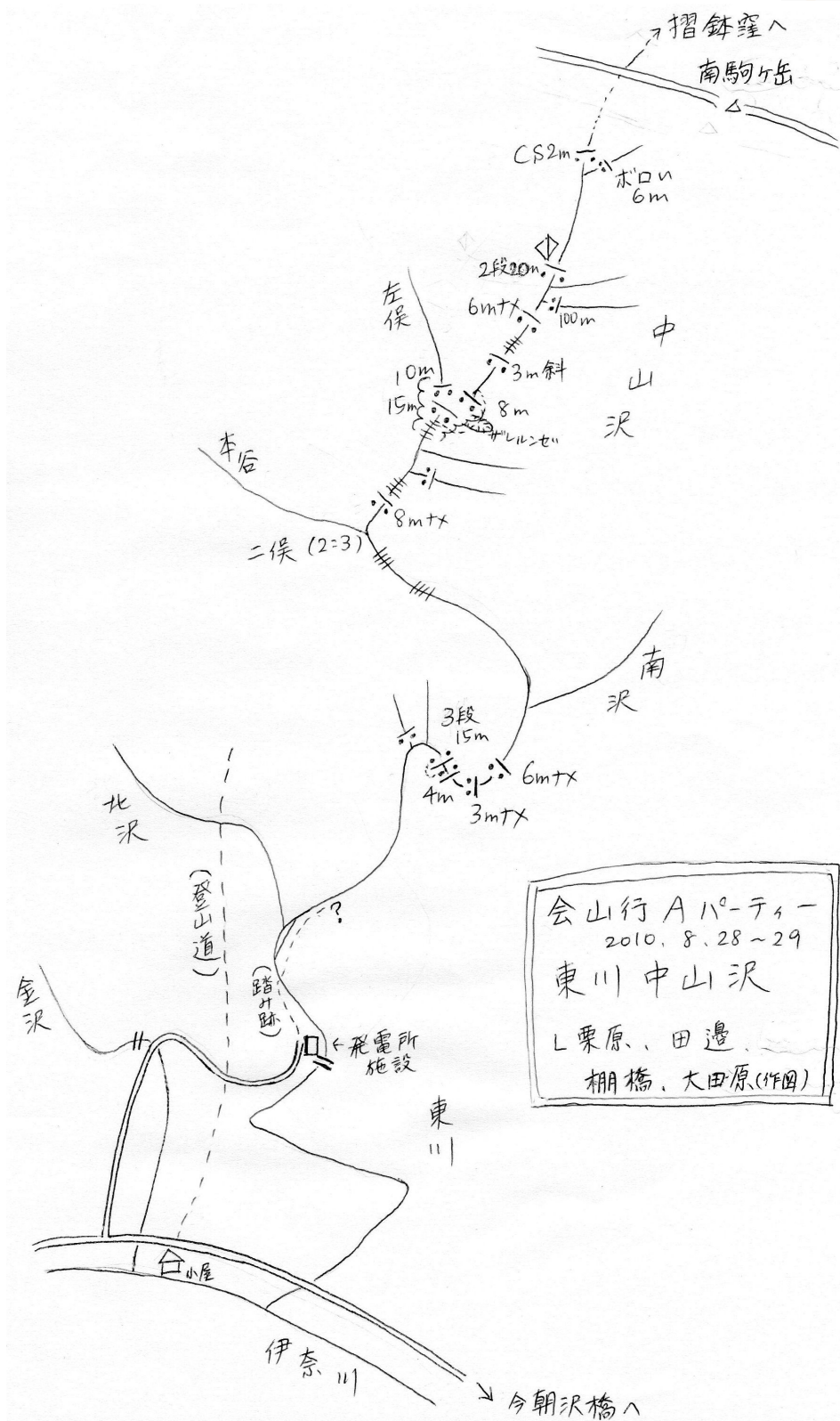
【行程】

8/28 駐車場(7:15)～うさぎ平(8:50)～南沢出合(11:30)～中山沢出合(13:10)～核心の滝下(13:45)～滝上(15:05)～テン場(15:40)
8/29 テン場(5:45)～登山道(7:00/25)～越百山～駐車場

【地図】空木岳



【南駒ヶ岳の山頂にて】





巨岩ゴーロの連続、先は???

中ア 伊奈川今朝沢 (Bパーティー)

古野

【日時】 2010年8月28日(土)～29日(日)

【メンバー】 佐貫(L)、渡辺、金沢、福永、古野

実は私にとって中央アルプスはハイキングも含めて初めての山域なのです。一年のブランクと共に様々な不安を抱えた会山行への参加でした。オマケに直前で会長が膝の不調で不参加となってしまった。

ダムを越えて初めての橋の手前で車は行き止まりとなる。しばらくは林道歩きであるが時折見る川の流れは谷のはるか下にある、思ったより水量がある。ニワトリ小屋橋の袂に南越百山への登山口がある。そこからは林道が廃道状態となり入渓する。壊れた丸木橋に生活の匂いがする。水は冷たくて気持ち良く、梢と青空の高いコントラストに夏の沢を感じる。

大きな岩、石がごろごろする溪相が延々と続く。ルート取りにゲーム的なおもしろさはあるがそれも段々飽きてくる。ほとんどまっすぐな沢なので途中の支沢を確認しながら進む。途中、岩のナメとそれに続く8m位の滝があり、そこがハイライトだった。

越百山への支沢を見送ると巨岩は少し小さくなってくる。今日のテン場予定地は2100m付近の斜度が急になる手前であるが側面が立っていて岩のゴーロ帯なので良い場所があるか不安であった。30分近く探して右岸の小さな林の中に整地のいない上物物件を確保した。

ここからは正面に屹立した沢が見え、手前の岩壁の奥に3つほどの滝が見える。樹林帯を抜けているためロープを出すのもビレイ点に苦労しそうだ。翌日が核心部というのもちょっと気分的に落ち着けない。

テン場到着時間が13時くらいと早かったが明日も早いからと設営、薪集めにかかる。何回か薪を取りに往復している時に福永さんがじっと座っている。疲れたのかな、と思っていたが実はテン場の河原でつまずいて前のめりに転倒し、岩で右肩、右胸を強打したのだった。

右手が使えない状況では目の前の急斜面を登るのは相当厳しい。翌朝まで様子を見ることにしたものの、かなり悲観的な気がした。

それはそれとして久しぶりの焚き火とつまみの競演は楽しい。夕立を覚悟していたが、空は落ち着いてきた。こんなときの時間はすぐに経ってしまう。

3時半-5時半という佐貫リーダーの指示を忠実に守って起床する。福永さんの右腕は水平以上は上らず、結局大事を取って下山することにし、7時の交信時間まで休憩。各パーティーは早めに集合し始めているようである。あまり早く下山しても下界は暑い

ので再度焚き火を燃やした後にゆっくりと腰を上げた。

途中の越百山への支沢を偵察したが出合から登れない5m滝があり、その奥にもゴルジュの中に滝のしぶきが見えた。支沢からのエスケープは却って厳しそうである。

集中に参加できずに残念ではあったが、自分としては中国からの復帰初めとしてはちょうど良かったのかもしれない。木曽側から見る中央アルプスの山々はかなり高く、立派に見えた。木曽は山の中である、という島崎藤村の一節を思い浮かべたのでした。

なお福永さんは骨折まではいいないらしいですが、内出血（あざ）が二日目くらいからすごく出てきたそうです。日頃の仕事での睡眠不足なども遠因かも、ということでした。皆さんも気をつけて下さい。

【グレード】 不明（下部のみは1級）

【行程】 8/28 ダム奥駐車場発(7:20)～入渓(8:35/8:55)～2100m付近BP(13:00)

8/29 BP(7:30)～二俣(8:30/9:20)～入渓点(11:20/50)～駐車場(12:55)

【地図】 空木岳

溯行図は単調のため省略します



岩棚のナメ、40m 位ある



上流部からは沢の核心部が威圧的に見える（正面右）

肝心のゴルジュは・・・

会山行Cパーティー 伊奈川 越百川

小川

【日時】 2010年8月28日(土)～8月29日(日)

【メンバー】 L小川、飯田、浅井

土曜の朝より、高橋パーティーに林道終点まで送ってもらい、トボトボ林道を歩く。途中で出会った釣師も越百川は滝があるだろ、と結構釣師には有名なようである。

そのためか知らないが、ゴルジュ入口の8m滝を右岸から巻きすぎて、核心部分である4mのC.S滝を30分で越えてしまった。C.S滝が気付いたら背後となっていた。何のためにここに来たのか・・・。

今回は会山行だし・・・、ということで気を取り直して続くゴルジュ帯へと進む。時間も早まったことで、しばし釣りタイムを楽しむ。今思えば核心もまだあり油断だったかもしれない。倒木のある6m滝は倒木にスリングをかけてズリあがるも、先でどうにも一歩がでず巻き。どうも巻き癖がついてしまったかもしれない。しばらく開けて4mトイ状滝は小川が泳いでとりつきようやく沢登りした！という感じ。続く2mの滝は小川、浅井さんと行くが這い上がれず右から巻いた。最後に3mトイ状を浅井さんが泳いで突破し、下部ゴルジュを抜けた。

取水口からは驚くほど水量が増えるが、特に滝もなく、下南沢出合から上部ゴルジュへ入る。入口は登れず、左岸を巻くと結局小滝を数個越えるだけで抜けてしまった。

あっけない一日だったが16時半すぎまで歩き、大きなボルダーの見えるところに幕営する。

翌日も快晴。6時前に出発する。中南沢をすぎてちょっとしたゴルジュ帯を過ぎればあとはひたすらゴーロ歩きとなる。時間的にはギリギリ間に合うかなと思っていたが、詰めのザレザレ&ヤブヤブに引っかかって10分遅れの山頂到着となった。既に他のパーティーは集合しており、山頂の幾人から見つめられてちょっと恥ずかしい。

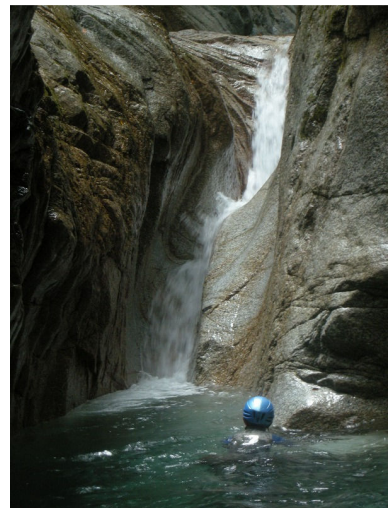
集合写真を撮ったらあとは下るのみだが、これも暑いでなかなか辛いものがある。結局、駐車場を発ったのは15時近くなっていて中央道の渋滞と合わせて、こちらも時間ギリギリの帰宅となるのであった。

【行程】

8/28 林道終点(7:00)～8m滝(8:05)～下南沢出合(14:40)～幕営地(16:40)

8/29 出発(5:50)～稜線(11:40)～登山口(15:30)

【グレード】 3級上



【3m トイ滝を浅井さんがトライ】

堰堤堰堤堰堤・・・滝・・・ガレ、ガレ、ガレ

Dパーティー

中央アルプス 越百山／与太切川横沢～唐松沢－中小川登山道

横山

【日時】2010年8月28日～29日

【メンバー】横山（L）、笹川、小暮

伊那組は夜半に道の駅「花の里いいじま」に夜半集結して、6:30出発。Dパーティーは横沢に併走する林道に降ろしてもらう。3人になってふと「なんか会山行気分がしないんですけど・・・」とボソリ。そだね。私もGWに続き小暮家の御世話になることになりました（笑）

30分程林道を歩いてから入渓する。白い岩が綺麗なますの美渓。魚もいるようだ。しばらくゴーロ歩きすると堰堤が現れる。登山体系には2つと記載されているが右岸林道を延伸してどんどん堰堤を作っているようで、9個も堰堤があった。ちょっとした小滝を二つ越えて、二股を過ぎると、核心部の滝。下段はお助けを出して越える。上段はとても登れないので、左から巻いた。

この滝を過ぎると、これと言った滝もなくやがてガレ場歩きになる。それからたつぷり2時間、急なガレ場を堪能することに。ラストを歩く笹川さんは頻発する落石で怖かったことだろう。藪漕ぎなしで13:00に唐松沢の乗越に着いた。唐松沢はなると源頭は唐松林で、キノコが沢山生えている。食用キノコの知識に乏しいので、採取はしなかった。コケ生したゴーロを降りていくと与太切川本流に着いた。中小沢までは目印と踏み跡を辿った。幕場は中小川林道脇の堰堤付近とした。堰堤が興ざめではあるが、薪が豊富で平らなのでまあ良しとする。笹川さんが無謀にも新カボチャを丸ごと担いできてくれた。ホイル焼きがとても甘くて美味しかった。

2日目は時間的に沢は無理なので、不要な装備を登山口にデポして登山道を往復することにした。2日間で標高差2300m登ることになる。昨日の疲れもあるし、登山道は廃道になっているらしく、ルートを探しながら歩くので、結構気を使う。それでも途中現れる沢が綺麗で夏のアルプスを感じさせてくれて、良い時期に良い山を選定してくれたと思いました。11:00には山頂に着き、集中に間に合いホッとした。山頂では石井家の無事ご出産の報を聞き、大変盛り上がりまし



出だしはまずまずの美渓。



只今堰堤造成中。なんと9個



10m トヨ状、上部は左壁を巻く

た。

【コースタイム】

28日 (6:45) 林道ー (7:15) 横沢入溪ー (9:20) 二俣ー (9:45) 滝上ー (13:00) 乗越
中小川登山道付近 (15:45)

29日 (6:30) 登山口ー (11:00) 山頂(11:45)ー (15:00) 帰着

【地形図】 1:25000空木岳

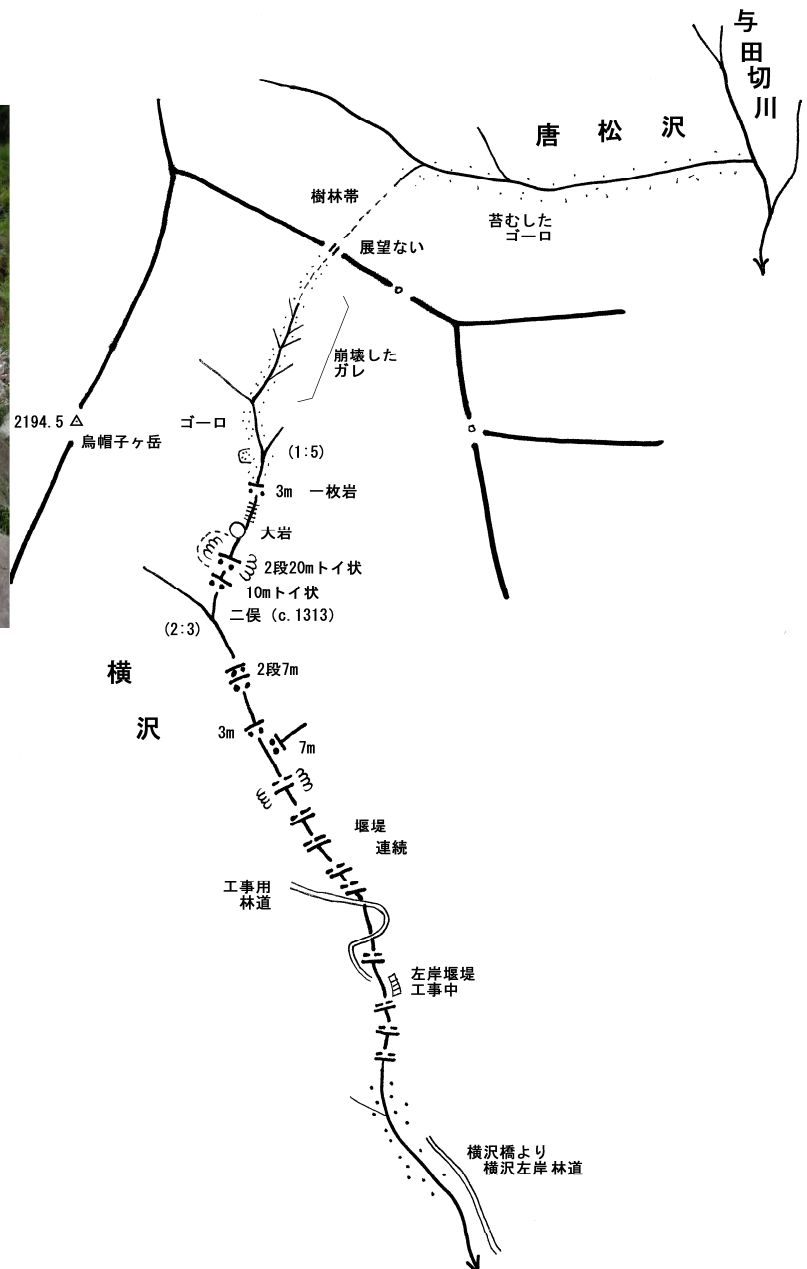
【グレード】 1級



2 時間たっぷりガレ場登り。



小暮家の新カボチャ甘いっ！



中央アルプス 中小川 仙涯沢

岩田

【日時】2010年8月28～29日

【メンバー】L岩田、大野、坂村、國田

昨年秋の事故以来ろくに山に行っていなかった。前々週に復帰第一戦目ということで大常木谷に行ったのだが、滝は登れないし、水流は渡れないしでなんとも情けなかった。果たして今回は大丈夫だろうかと思って参加したがいきなりリーダーとはなんとも酷である。まあ、それくらいのプレッシャーがあった方がいいか・・・。

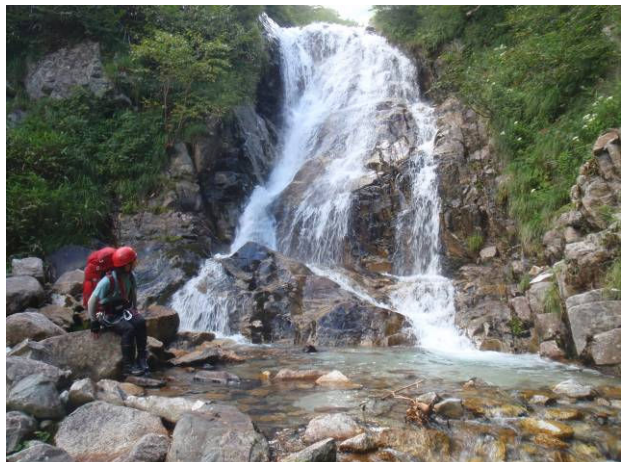
今年の異常な猛暑のおかげか朝からよく晴れている。夕立にさえ気をつけていけば大丈夫だろう。公園を通り過ぎ車で林道を行けるところまで行ってみるがシオジ平自然園までは行けず、かなり手前で降りることになった。ここで支度をして出発である。

林道を1時間くらい歩くと登山道の入り口に出くわす。登山道と言っても入山者は少ないようであまり整備されているとはいえない。いきなり笹ヤブから始まるのだ。笹ヤブが終わるとようやく登山道らしくなるが、途中に設置されているハシゴなどはいまにも壊れそうで頼りない。途中の乙女の滝の渡渉地点はクサリが一本垂れ下がっているだけで雨が降ったらなかなかきわどい。全貌が見えない相生の滝を巻くと沢登りらしくなってくる。ここから入渓する。

飛竜の滝までは平凡な川原だ。飛竜の滝は15mくらいの小さな滝と思っていたが巻いてみると思ったより大きいことがわかる。30mくらいはあるだろうか。ここからは明るい溪相が続く。15mの滝は大野さんが果敢に挑む。釜に落ちながらも見事に突破し後続も続く。その後も登れる小滝が続いてなかなか楽しい。さらに見事な15m滝が続く。大野さんはノーザイルでも行けそうだというが、上部がちよっと厳しそうだ。自分はまだ復帰2戦目でもあったのでここは甘えてザイルを出してもらった。さすがに大野さんはトップでスルスルと登って行ってしまった。

続く坂村さん、國田さんはやはり上部でこずっている。そこが核心のようだ。ラストで自分が登ってみたが直下が滑りやすくやはり厳しい。ザイルのありがたさがよくわかる。

10mの滝を巻くと二俣だ。幕営もできそうだが増水したらひとたまりもなさそうなところなので事前情報で得ていた奥の二俣を目指してみる。しかし、進むにつれ沢は段々と荒れてきて嫌な予感がする。奥の二俣に到着するがどうもテン場にできそうな場所は



見当たらない。二俣で泊まっておけばよかったかといまさら後悔する。これより上部に期待したいところだが望みは薄い。ここまできたら仕方ないので時間もあることなので一気に稜線を目指すことにする。水が枯れるとヤブと草つきに早変わり。傾斜も急になりそろそろ疲れも出てくる。國田さんはかなり疲れていたようだがなんとか頑張って歩いてもらう。うーん、申し訳ない。このあたりからブヨが多くなって鬱陶しくなる。防虫ネットをかぶりながらのヤブと草つきはなんとも不愉快だ。

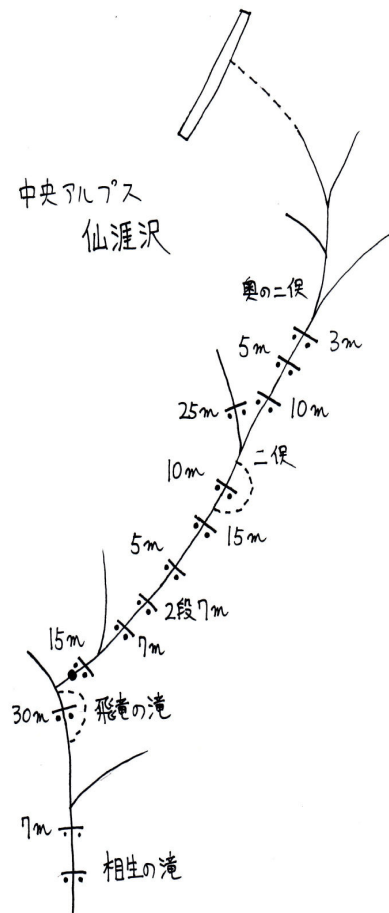
なんとか草つきを抜け、稜線に出るとここでもブヨに歓迎される。小屋まで行こうかと思ったが時間的に無理だったので諦め稜線上でのビバークとなった。焚き火がないのが残念だがまあ仕方ない。平坦なところで寝られるだけでもありがたいと考えなくては。おかげで12時間行動の疲れはとれたのだから。

翌朝、山頂からの高橋さんのモーニングコールで目覚める。山頂集合まではまだまだ時間があるのでのんびりした朝食とコーヒーで過ごす。山頂は快晴で無風。集合するには申し分ない。時間がたつにつれそれぞれのパーティーが集まってきた。佐貫パーティーは残念ながら途中下山となってしまったが、最後の飯田パーティーが到着し集合できた。久しぶりの会山行で集合ができて満足がいくものとなった。

【グレード】 2級

【行程】 8/28 ゲート (7:05) ～登山口 (8:10) ～相生の滝上 (10:30) ～飛竜の滝 (11:15) ～二俣 (13:30) ～奥の二俣 (14:50) ～稜線 (17:35)

【地図】 空木岳



【日時】 2010年8月28日(土)～29日(日)

【メンバー】L木下 田辺(利) 坂井 煤孫

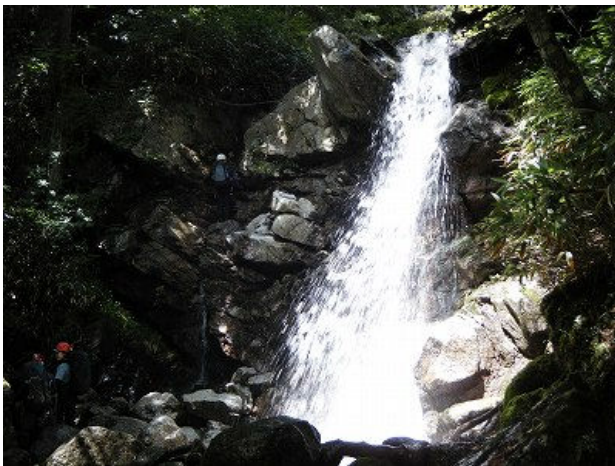
当初、会山行で割り当てられたルートは与田切川本流であった。調べてみるとゴーロ歩きと稜線の藪漕ぎに終始しそうで、もう少し工夫できないものかと地図とにらめっこ。支流のアズキ沢は南越百山付近に突き上げ、稜線の藪漕ぎもなくスケールも手ごろかと選んでみた。記録は見当たらず、地形図の等高線をみては想像をめぐらし、久しぶりにわくわくの入山となった。

8/28 晴

伊那側の3パーティーは道の駅・飯島に集合、快適な仮眠場所であった。快晴の朝、南駒ヶ岳～越百山の稜線がすっきりと見える。横沢に入る横山パーティーを途中で落として、ゲートまで入る。シオジ平まで2.6kの地点、少し戻った「カモシカ展望台」に車をデポする。



傾斜のきつい車道に大汗をかいながら1時間ほど歩き、与田切本谷へ入渓する。深い樹林、そして白い花崗岩のゴーロの沢である。清冽な水と木々の木陰、渡る風、これだけでも灼熱の都会から来た甲斐があるというものだ。イワナには良い溪相だなあと思っていると一心に竿を振っている釣師が二人、軽く会釈をして左岸の踏跡から追い越した。



1時間半ほどで目的のアズキ沢到着した、ここまでは坦々としたゴーロ歩きである。アズキ沢に入るとしばらくすると沢はほぼ直角に右に曲がり、20m滝が現われた。

「うん、やっぱりね」直登は難しく、左岸の沢型から高巻く、笹と針葉樹の植生でホールドスタンスともにしっかりしており、難しい高巻きではない。巻き降りると8m滝、念のためにザイルを出す。続いて20m滝、これも手が出ず左岸か

ら巻く。思った以上の展開にメンバーの顔も引き締まる。「地形図のこの屈曲がこの連瀑だとすると…これからいくつも同じような展開が予想される…」



すぐに次の連瀑帯がトイ状の15m滝から始まる。右のバンドからとって取り付くが空身+ザイルになりそうなので、時間も考えて右岸から巻くことにする。小尾根上を行くが大岩に阻まれ、さらに左の枯沢に入り高度を稼いでからトラバース、うまく落口に出られた。続く4m、7m滝は快適に登る。すぐに12m滝、取り付けず左岸から高巻き、続く滝は荷揚げなども交えて快適に登っていくと、20mスダレ状の美瀑。

左岸からの支流の滝を登って高巻く。ここを過ぎると沢は穏やかになり、そろそろ幕場の選定モードに入るが良いところがない。

急なゴーロ状で、平坦なところがあってもゼロメートル地帯。今回は天気が保障されていると思っても、こここのところのゲリラ豪雨を見るとそんな気にはなれない。なんと

か標高2120m付近に笹藪に少しだけ平坦な場所を見つけた。笹を刈り、凹地には石を積んで1時間ほどの土木工事の末、良い幕場が出来あつた。

「ご苦労様、乾杯！」焚火を囲んでリラックスしたひと時を過ごす。

今シーズン、沢の回数の少ない新妻と美人OLには結構ハードだったかな、躍進中の煤やんには勉強になったかな…と、明日は集中です。

8/29 晴

朝焼けの茜雲を見ながら朝食、爽やかな朝である。

朝一番より連瀑に向かう。水流に近いスラブ状の岩に取り付くがホールドなく、行き詰る。右から巻き気味に上がってもらいお助けをもらう。フリクションで登れるが支点が取れないので結構緊張した。続く滝は慎重を期してザイルを引いて登るが、今度は難しいところはない。連瀑の中段に10mヒョングリ滝、右のクラックか、左のスラブ～バンド～凹核かと見回すが、やはりザイル+空身のトライになりそうなので右岸からやや大きく巻く、ここは笹藪と傾斜がきつく、やや厳しい。傾斜のある滝を2つ巻いてちょうど落口に出た。



沢は穏やかになり、1:2の支流を分けると崩壊地を左岸に見る。楽しく登れる小滝と庭園風の流れとなり、高山植物の色とりどりの花や次第に広がる南アルプスのパノラマにメンバーも思わず笑みがこぼれる。



下山の中小川沿いの道は刈り払いがされておらず、また木の梯子なども老朽化が目立ちこのままだと一般道からは遠くなって行きそうな道である。なかなかハードな下山路であった。伊那側の3パーティーは順調に下山、駒ヶ根の駒草の湯に入って、帰京の途についた。

【行程】 8/28 ゲート (7:05) - 中小

小屋 (7:50) - 与田切川本流 (8:10) - アズキ沢 (10:45) - C1・2120m (13:50)

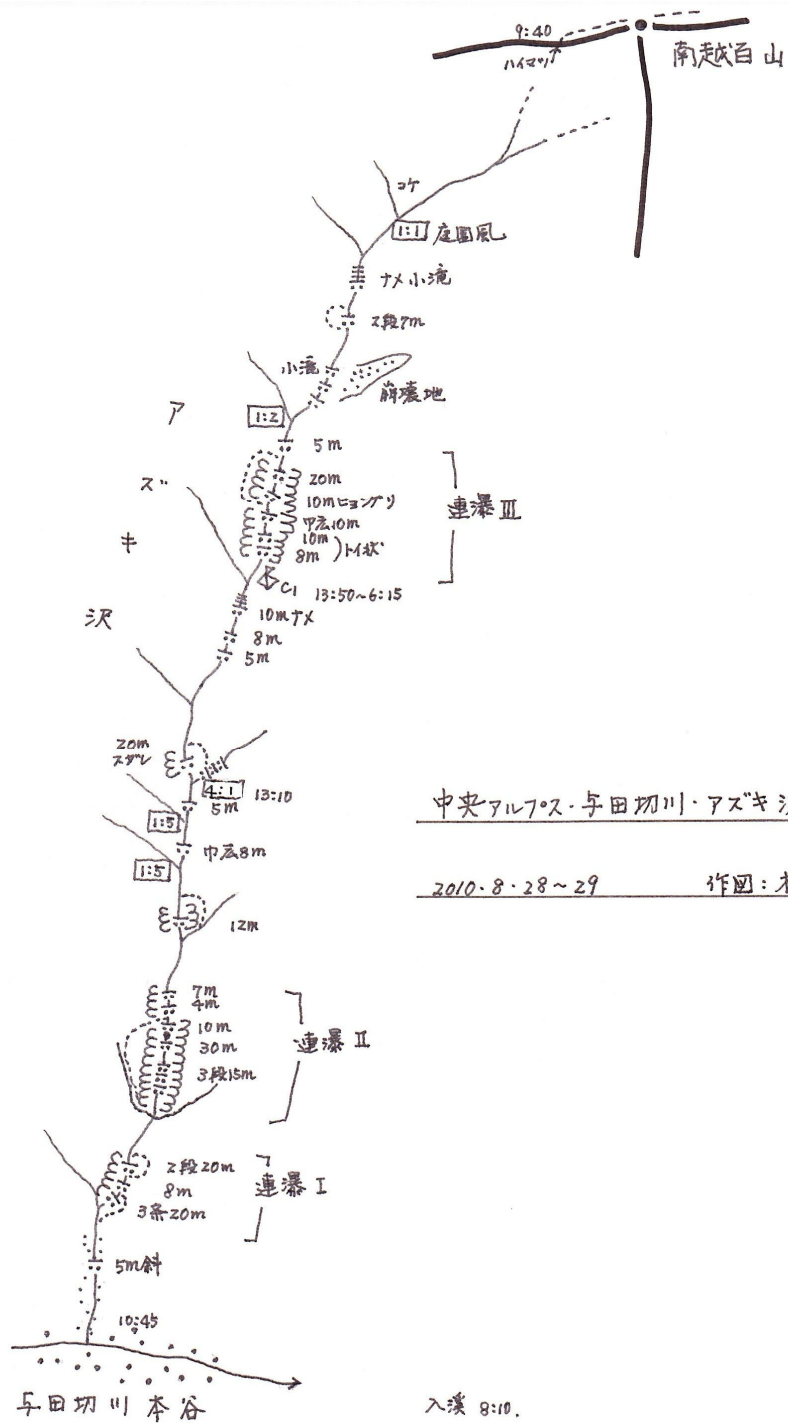
8/29 C1 (6:15) - 稜線 (9:40) - 越百山 (10:15-11:50) - 中子川登山道一車
デポ (16:15)

【地図】 空木岳 安平路山

苔の美しい水量の多い支流を分けると急速に水がなくなり、涸れた沢のくぼみを忠実に詰める。最後の50m程はハイマツ漕ぎとなり、これを抜けると白い花崗岩の砂礫の稜線に出た、素敵な開放感であった。「お疲れ様でした！」と握手。

越百山には数人の人影が見えており、続々と集中してきているのだろう。30分程で越百山のピーク到着。皆の集中を待つ間、ハイマツの中で1時間の昼寝はなんとも贅沢な時間であった。ケサ沢パーティーが集中できなかったのは残念だが、最後の越百川パーティーが少し遅刻して集中、皆の笑顔を見るのはよい。





中央アルフス・与田切川・アズギ沢

2010・8・28～29

作図：木下